



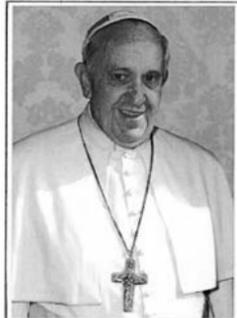
第385号  
2018年12月  
〒461-0004  
名古屋市東区葵2丁目6-35  
カトリック名古屋教区広報委員会  
「教区ニュース」編集部  
電話 (052) 935-2223  
FAX (052) 935-2254  
印刷所 株式会社 荒川印刷  
毎月第1日曜日発行

### 名古屋教区福音化養成研修会を開催

名古屋教区の「福音化養成研修会」が9月16日(日)・17日(月・祝)、ホテルウイング・イン(男女)、北陸ブロックから1人、信徒2人(男女)の計32人で行われた。研修会のまとめは次の通り。



この研修会は松浦信郎司教が名古屋教区に着座して出された、司教教育の目標第3項に基づいて、「信徒、修道者、司祭が上下の関係ではなく、神の民としてかけがえの無い役割で結ばれ、神のみ旨を識別する共同体となっていく」ために企画されたものである。研修会で大切にしたいことは「分かち合い」によって、具体的な自分の現実(家庭・地域・仕事)と同じ信仰を持っていく人と話し合うことにより、「気づいていく」と。そして、この研修会



Venerabili Fratri Augustino Jun-ichi Nomura, Episcopo emerito Nagoyensi, vestimentum quibus annuum a sacrosancta episcopali ordinatione celebranti, faustum exitum vitae gratulamur; dum, memore eius pastoralis et frugiferae caritatis quam studioso et iteris modis explesti eisdem atque omnibus quos caros habet, auspice Beata Virgine Maria, Apostolicam Benedictionem largimur; supernam munusculam auxilium ac pignus fraternae caritatis petentes pro Nobis precemur. Ex Apostolice Sedis auctoritate. 2018.06.25.

フランシスコ教皇様より今年6月に、アウグスチノ野村純一名誉司教の司教叙階25年を祝す書簡が参りましたので紹介します。なお翻訳は野村司教にお願いしました。

司教叙階25年を迎える尊敬する兄弟アウグスチノ野村純一名古屋教区名誉司教にお祝いを申し上げます。この生涯の祝福された出来事を祝うにあたって、努力と熱意をもっていろいろな方法で大切に成し遂げられた司教の豊かな実りを思い起こし、聖なるおとめマリアの導きのもとに、使徒的祝福を与えます。わたしのためにお祈りをお願いし、心からの好意と兄弟的愛を表します。

パチカンより、2018年6月25日  
フランシスコ

### 宣教地召命促進の日 12月2日 献金

キリストを知らない人に救いの福音を伝えることは、キリスト者一人ひとりに課せられた使命であり、神からの呼びかけにこたえること(召命)です。この日私たちは、世界中の宣教地における召命促進のために祈り、犠牲を捧げます。当日の献金はローマ教皇庁に集められ、全世界の宣教地の司祭育成のための援助金として送られます。

### 研修内容

研修は5つのプログラムに従って行われた。プログラム(1)、簡単な自己紹介から始め、あらかじめ提示されていた項目「教会に通うことになったキツカケは? 神を信じてよかつたと思つたこと、感じたことはありますか?」などに基づいて分かち合った。プログラム(2)で「信仰と生活」の遊離をテーマに、司教作成の脚本でロールプレイが行われた。スタッフ3人が実際にありそうな様子を演じ、それを見た後で、グループで「信仰と生活」が遊離していないか、各自の置かれていた状況や実生活について分かち合った。ロールプレイを聴きながら、笑いが沸き起こる場面があった。プログラム(3)で、司教による1日目のまとめ(キーワードは、①分かち合うこと ②支え合うこと ③祈り合うこと ④チャレンジし合うこと ⑤派遣し合うこと)と、そして聖書3カ所(ヤコブの手紙、コロサイの信徒への手紙、マルコ福音書)を読んで、沈黙のうちに各自、気づきが何であったかを分かち合った。

最後のプログラムでは、3グループで分かち合いを持った。「小教区・ブロックの中で、自分の信仰について分かち合う機会はあるか?」「生活の中で信仰を生き、福音を伝えるために、小教区・ブロックとして、どうすればよいと考えるか?」など分かち合った。グループで分かち合ったことを共同祈願としてまとめ、奉納した。

最後のプログラムでは、3グループで分かち合いを持った。「小教区・ブロックの中で、自分の信仰について分かち合う機会はあるか?」「生活の中で信仰を生き、福音を伝えるために、小教区・ブロックとして、どうすればよいと考えるか?」など分かち合った。グループで分かち合ったことを共同祈願としてまとめ、奉納した。

最後のプログラムでは、3グループで分かち合いを持った。「小教区・ブロックの中で、自分の信仰について分かち合う機会はあるか?」「生活の中で信仰を生き、福音を伝えるために、小教区・ブロックとして、どうすればよいと考えるか?」など分かち合った。グループで分かち合ったことを共同祈願としてまとめ、奉納した。

最後のプログラムでは、3グループで分かち合いを持った。「小教区・ブロックの中で、自分の信仰について分かち合う機会はあるか?」「生活の中で信仰を生き、福音を伝えるために、小教区・ブロックとして、どうすればよいと考えるか?」など分かち合った。グループで分かち合ったことを共同祈願としてまとめ、奉納した。

教区ホームページ	
福音のひびき	
12月の説教者	
2日	待降節第1主日 片岡 義博 (富山地区)
9日	待降節第2主日 ティボン・レイナルド (大垣教会)
16日	待降節第3主日 三上 和久 (三馬教会)
23日	待降節第4主日 ジョゼフ・アロキア・アルパート (南山教会)
25日	主の降誕 荒田 啓示 (神言修道会)
30日	聖家族 早川 努 (岡崎教会)

### 美濃・尾張キリシタン顕彰碑 建立地の祝福式

名古屋教区殉教者顕彰委員会では、かねてより、この地方で迫害され犠牲となつたキリシタンたちの顕彰碑を建立するための土地を探してきた。その願いがかなない岐阜県可児市塩に新たに取得した土地の祝福式が10月23日に執り行われた。



式には野村純一名誉司教をはじめ、顕彰委員会から浅井太郎神父(顕彰委員会委員長)と栗木英次さんの2人が立ち会つた。はじめに野村司教は次のような招きの言葉を述べた。「恵み深い神は、今日、わたしたちにこの土地を祝福する喜びを与えてくださいました。この塩という地域で1661年(寛文11年)から始まつた「寛文崩れ」「尾濃崩れ」によって多くのキリシタンが命を落としました。この土地を多くの人々が訪れ、彼らの信仰を思い起こすことにより、わたしたちが何を大切に生きていくか、生きていく意味は何か、何のために生きていくかなど、もう一度人生の根本的な意味を問い直す機会となります。この地を巡礼する人たちの上に、神の豊かな祝福が与えられるように祈りましょう。それから福音朗読(マタイ福音書16章)、共同祈願に続き「主の祈り」を唱へた上で、野村司教は聖水で土地を祝別し、祝福式を滞りなく終えた。

現地は岐阜県可児市塩の一角にあり土地面積は約200㎡で、諸手続きを経て顕彰碑を建立する運びとなる予定。

### 鹿児島教区で 司教叙階式



鹿児島教区出身の中野裕明神父が新教区長に任命され、10月8日司教叙階式ミサが捧げられた。主司式は約12年間教区長を務めてきたパウロ郡山健次郎司教が務めた。会場となった宝山ホール(鹿児島文化センター)には18人の司教と、約70人の司祭団、1000人以上の信徒らが参列し、新司教誕生を祝った。叙階の儀に入り、司教団から接手を受けた中野新司教に司教帽と牧杖が授与された。司教たち一人一人と抱擁の挨拶をかわし、その後には郡山司教に代わってミサを司式した。叙階式の最後に中野司教は参列した一人一人に感謝の意を表した。そして「これまで県外で働いてきたが、やっと今はホームタウンに帰ってきました」と笑顔で話した。「大きな責任を負うことになったが、皆さんと一緒に頑張っていきたい」と希望に満ちた挨拶をした。

現地は岐阜県可児市塩の一角にあり土地面積は約200㎡で、諸手続きを経て顕彰碑を建立する運びとなる予定。



### 第5回アパレシードと子どもの日フェスティバル ブラジル移民110周年を祝う



ブラジルの国の守護聖人「アパレシードの聖母マリア」と子どもの日を祝う、第5回アパレシードと子どもの日フェスティバルが10月14日、多治見修道院内の広場で盛大に開かれた。ブラジル人の他、ペルー人、ベトナム人、フィリピン人、日本人などさまざまな国籍の人たち約1500人が集まり共に祝った。近県からも多くのブラジル人が参加した。

ル人が駆けつけた。ミサは松浦悟郎司教が2人の司祭と共に司式をした。松浦司教はミサのはじめに「雨が上がり、祝福されているように、アパレシードはブラジル人の皆さんにとって、とても大事なお祝いです。その意味で、ベトナム人も日本人もフィリピン人も、いろんな国の人が共に集まって祝うこと

は、とても素晴らしいこととです。マリア様の取り次ぎによって、世界で特に貧しい人々、苦しんでいる人々のために、神様の大きな恵みがあるよう祈りましょう」と日本語で挨拶をした。それを暮林響神父(神言会)がポルトガル語で通訳した。

続いて黒の聖母像を乗せたみこしを先頭に、歌と祈りを捧げながら聖母行列が行われた。多治見修道院のブドウ畑を一周した後、再びミサが続けられた。松浦司教はポルトガル語でミサを司式した。

説教はアンセルモ・フェレイラ・デメロ神父が担当した。同じ10月14日にバチカン・サンピエトロ広場でフランシスコ教皇によって列聖されるパウロ6世教皇の若い男女が花を持って踊り、アパレシード聖母像に奉花した。また今年ブラジル移民110周年に当たり日本とブラジル友好を記念して、ブラジル生まれの日系2世の岡田美智子さん(79才)ら4人の日系の人たちが和装で、パンとブドウ酒とブドウを奉納した。写真。

とオスカル・ロメロ大司教の二人を紹介した。祭壇脇に二人の写真も展示された。

奉納では、ベトナム人の若い男女が花を持って踊り、アパレシード聖母像に奉花した。また今年ブラジル移民110周年に当たり日本とブラジル友好を記念して、ブラジル生まれの日系2世の岡田美智子さん(79才)ら4人の日系の人たちが和装で、パンとブドウ酒とブドウを奉納した。写真。

神言神学院(名古屋市中昭和区八雲町)のオーブンハウスが10月21日に開催された。

ミサ後はブラジル料理などで昼食を楽しんだ。子どもゲームコーナーでは、かわいい景品がもらえるところとあって、チャレンジする子どもたちの歓声が上がっていた。

南山教会で5月20日に開催されたインターナショナルミサは、私にとって今年が2回目の参加でした。1回目に行った時よりも参加人数は少なかつたのですが、内容はとても濃かったと思います。伴奏は電子オルガンでもパイプオルガンでもなく、バンドの人たちが生で演奏してくださり、リズムも変わっていたり、いつものミサとは全く違い、なんだか不思議な感覚。また、世界中の人々が集まったこのミサは、少し見渡せば、話す言葉が違う、肌の色が違う、目の色さえも違う。ここにいて、肌色も違う、目の色も違う、誰ひとり全く同じ人はいないのだと感じました。しおりに書いてある言葉も、スペイン語、英語、ポルトガル語、ベトナム語、中国語、そして日本語と、たくさんの言葉の歌詞が並んでいて、全部の人がしゃべる言葉だ。そこには言葉の壁なんて一切見えなくて相手の言いたいことがすぐに伝わってくる。そんな気分でした。



「きずな」  
太田愛智  
(中3/瀬戸教会)

私も神様からの使者として行動し、発信するきっかけを見つけれられるよう、これからもミサに参加していきたいと思えます。

私たちが神様が望まれていることは世界を平和にしていけること

「ここを出て行く必要はない。司教様は何回も「ここを出て行ってください!」とおっしゃって

いました。そして世界中を平和にしていけるためには、「自分たちから発信していく」必要があるのだそう。私は「この「発信」という言葉には深い意味が込められているのでは?」と思います。まず発信するために、考える。さらに知識として深めていく。それを自分の言葉にして、やると発信すると言えらると思えます。

### 新成人を祝う教区新年の集い2019

New Year gathering to celebrate the new adults  
「心を尽くして主に仕え、あなたの道を歩み、そうすれば、主はあなたの道徳をまっすぐにしてくださる。」  
2019年1月20日(日) ミサ 布池司教座聖堂  
14:00 司教ミサ 茶話会 地下ホール  
16:00 茶話会  
17:00 終了予定

日時 1月20日(日) 14:00~17:00  
会場 カトリック布池司教座聖堂  
内容 14:00司教ミサ  
16:00茶話会(地下ホール)  
17:00終了予定  
主催 カトリック名古屋教区  
問合せ 名古屋教区本部事務局 ☎052-935-2223

### 2018クリスマス メディテーション Christmas Meditation

このメディテーションは救い主イエスの誕生の喜びをオルガン演奏や讃美歌でお届けするものです。そして世界中で生まれるすべての子どもに、神の祝福があることを祈ります。

日時 12月22日(土) 13:00開演(12:30開場)  
場所 カトリック布池教会大聖堂  
主演 布池教会琴奏部 オルガニスト 女声合唱団 コールリリアス  
賛助主演 豊田市少年少女合唱団 ALUMNI  
入場 無料。メディテーションの献金は全額、中津川市の麦の穂学園乳幼児ホーム「かがやき」へ寄付されます。

### X'mas おすすめ絵本 「ちびっこといっしょクリスマス」

女子パウロ会発行 972円(税込)  
イエスさまの生まれた日、クリスマス。でもお生まれになるまでには、たいへんなことがいっぱい!!  
マリアさまへの天使のお告げから、ヨセフさまとのベツレヘムへの旅が始まる。神さまを信じてのりこえられた、うれしい うれしい お誕生日までのできごとです。

### サマリヤハウス コンサートを開催

カンツォーネシンガーの後藤いくみさんらを招いてサマリヤハウスコンサートが10月13日、A J U自立の家(名古屋市中昭和区)で開催された。

このサマリヤハウスコンサートは福祉ホームサマリヤハウス入居者が中心となり企画し、ボランティアやヘルパーの方、地域の方へ日頃の感謝を込めて開催してきた。福祉ホームサマリヤハウスは、障害者が家族や施設の都合に合わせるのではなく、自分らしい生活づくりに挑戦し、4年間の入居を経て地域の自立生活を目指すところだ。その福祉ホームの一大イベントであるサマリヤハウスコンサートへの企画・準備・運営は、入居者の実行委員会を中心に全員で役割分担をしている。

92年当時の入居者として後藤さんの出会いは、きっかけでスタートし、今年で27回を迎え、その間サマリヤハウスの卒業生も130人を超えた。地域へ巣立った先輩たちから代々受け継がれ、開催されてきた。プログラムは後藤さんを囲んでミニライブ、皆で一緒にLet's singなどで、観客の人も一緒に。コンサートの最後には、間もなくホームを卒業していく入居者が、後藤さんをはじめ観客に向けて、施設を飛び出し、ホームに入居した際の思い、今後の地域での暮らしへの希望や目標を語る一場面もあった。

先輩から引き継がれたこのサマリヤハウスコンサートをこれからも続けていきたいと思っています。

(サマリヤハウス コンサート実行委員会)

